日本SOD研究会報

特集 愛飲者インタビュー

丹羽療法との出会いが自然派美容室開業に

SODで母子愛犬まで家族全員がアトピー克服

大阪で自然派美容室を営んでいる
小川直美さん（52歳）

発行元 日本ＳＯＤ研究会 宮城
住　所 〒158-0094
東京都世田谷区
玉川 1-15-2 Ｂ棟 2802
TEL. 03-5787-3498
協力：株式会社丹羽メディカル研究所
http://www.niwa-medical.com

「人と地球にやさしい自然派美容室」を謳い、合成ヘアケア剤・合成パーマ液・合成化学染料カラー剤などは一切使わず、１００％天然素材のものを使用している美容室が大阪にあります。ここでは使用するタオルの洗剤も天然素材の石鹸を使用。よくある美容室特有の匂いもないと言います。さらに天然のヘアケア用品だけでなくＳＯＤなども販売しており、肌の弱いお客様には外側からだけでなく内側からのケアとしてお勧めしているそうです。となれば、この会報でも是非紹介したく、今回お電話をさせていただきました。

電話取材に応じてくださったのは、美容室のマネージャーという店長の奥様、小川直美さん。今回もまた、目からうろこのお話をたくさん聞かせていただきました。

丹羽先生講演会の会報に触れ体中が震えるくらいの衝撃

小川さんご夫妻が自然派の美容室を開業されたのは今から20年ほど前のことです。直美さんが化学物質過敏症でアトピー体質だったことで、美容室に行くと必ず頭痛や発疹が出ていたそうです。そのときに美容室に勤めていたご主人の英雄さんに相談をした事がきっかけとなり、同じような体質の人でも安心して通える自然派美容室を作ることになったそうです。

ご主人も美容師の仕事をしているなか、やはり頭皮のただれや抜け毛、薄毛などのトラブルに悩んでいるお客様がとても多く、さらに美容師仲間にアトピーを発症している人が多い事を知り、これはカラー剤やシャンプーなどに問題があるのではと疑問を感じていたと

か。そこでいろいろ調べ始めると、驚きの事実にぶつかったのです。

「シャンプーやリンス、カラー剤やパーマ液の成分が農薬や除草剤の何倍も毒性が強いということが分かったんです。知れば知るほど、これって健康を害し、不妊や難病を引き起こすのではないかと怖くなりました。さらにそれらの溶液を下水や河川に垂れ流しているのですから、自然環境や生態系にもダメージを与えていると思うんです。実は、クリーニング業界も同様に以前は有害なドライクリーニング液を垂れ流していたのですが、排水管理基準ができて、浄水しないと流せなくなったのです。しかし、美容理容業界は今も一切の規制がないんです」

そこで体に害のない、環境に優しいシャンプーやカラー剤、パーマ液はないかと自然派、ナチュラルを謳った商品をいろいろ調べてみたそうです。しかし、どれもオーガニックを謳いながら、従来のものと同様の毒性の強い成分が含まれていました。

「そんなときに丹羽先生のことを知ったんです。正確に言うと、ＳＯＤの会報に出会ったんです。美容室にいるとお店にはいろいろなダイレクトメールが送られてきます。ほとんど読まずに古紙回収に出していましたが、そのなかにＳＯＤの会報があったんです。なぜか妙に気になって、開封したのです。それが丹羽先生の講演会の記事でした」

その会報とは、おそらく２００８年に東京ビックサイトで開催された『健康博覧会』で丹羽先生が特別講演を行った時のものでしょう。内容は、アトピーの話から、８歳で亡くなったご子息の話、抗がん剤の話など、今聞いても感銘を受ける内容の濃い講演会でした。

「何気なく手に取って読み始めたのです。そうしましたら止まらなくなって最後まで一気に読んでしまいました。これまで自分がしてきたアトピー治療の間違いや、環境汚染が人体に与える悪影響、抗がん剤の怖さ、がんで亡くなられたご子息のことなど、体が震えるくらいの衝撃を受けました。そして、ここに私たちが求めている安全な美容室の答えがあるかも知れないと感じ、もっと丹羽先生のことや丹羽療法のことを知りたいと思い、先生の著書をすべて読みました。そして美容界にいる私たちが、シャンプーやリンス、カラー剤、パーマ液をなんとかしなければと強く思ったのです」

店長で直美さんのご主人、小川英雄さん。
環境と体を守る安全な美容講習会なども開催しています。

丹羽先生も理美容剤は猛毒だとアトピーやがんの危険性

勉強し始めて思ったのが、医療業界と同様、美容業界も環境汚染と危険な化学製剤の乱用で人や環境を害していることでした。

「まずはＳＯＤをたくさん取り寄せ、アトピー体質の子供たちや私が、ＳＯＤの効果を体験、実感するために飲み始めました。会報の情報では丹羽先生いわく、アトピー体質の人は、ＳＯＤを飲むと最初の2週間余りは好転反応でアトピーがぶり返したようにかゆくなる人がいるとのこと。それも納得して飲み始め、最初はやはり好転反応が出ましたが、これはいいことなのだと喜んだくらいです。その後、先生のおっしゃる通り、2週間後にはかゆみがなくなり、肌がみるみる快方に向かっていったのです。それ以来、3人の子供たちは、風邪や熱でもＳＯＤだけで治せるようになり、病院のお世話になることはありませんでした。これはすごい、丹羽先生は本物だ、と家族全員が確信しましたね」

直美さんの丹羽熱はこれだけでは止まらず、とうとう丹羽先生に会って相談したいと思ったそうです。

「丹羽先生自身が生薬を使った制がん剤を開発され、自然の生薬だけで活性酸素を除去するＳＯＤを作ったのですから、私たちが求める自然の美容薬剤を作るヒントを出してくださるのではないかと思ったんです。笑っちゃいますが、ＳＯＤを配合した薬剤で魔法のように毒性が消えてしまうかもと本気で思ったくらいです」

当時、丹羽先生は月に一回、全国7、8ヶ所の診療所を回って診察していました。そのなかに新大阪診療所が含まれていました。直美さんの家からはそう遠くないところでした。アポイントメントを取ったところ、さすがに美容師が何の用か？　と取り次いでもらうこと自体が難しかったと言います。

「病気の診察でもなく、ただ先生に面会したいだけで貴重な時間をいただくわけにはいきませんよね。それでも、どうしてもとお願いしましたら、時間は約束できないけれど面会の許可をいただき、当日、新大阪診療所に行きました。ちょうどがん患者さんの診療の日で診療所の待合室は満席でした。こんなにもたくさんの方が丹羽先生を頼っていらしているんだと思うと、緊張しました」

結局、先生に会えたのは診療が終わった深夜のこと。6時間は待ったそうです。

「ようやくお会いできたときは、本物の丹羽先生だと感激しました。具体的に何をどう話したのか、記憶が飛んでしまって正確には覚えていないのですが、とにかく自分の使命と願いを一生懸命に話しました。美容に使う猛毒の薬剤で重症の皮膚疾患が多いこと、環境を汚染していること、なんとか安全なシャンプーやリンス、カラー剤を作れないかという相談など、1時間くらいは、話し続けたと思います」

そうか、そうか、と頷きながら直美さんの話を聞いている丹羽先生の姿が目に浮かぶようです。

このときの直美さんの情熱に対して丹羽先生は、

「あんたの言うとおりや。理美容界で使うパーマ液やカラー剤は猛毒で、そのために美容師にがんが多いんじゃ」

と言われ、

「安全な理美容薬剤の開発に、マグニー石を使えばいい」

という大きなヒントをもらいました。

「初めてお会いした時に、とりあえずマグニー石を細かく砕いた粉を混ぜたシャンプーやリンスを作ってみなさいとアドバイスいただいたんです。驚いたのはその数日後、家に大量のマグニー石が入った段ボールが届いたんです。感動すると同時に、これは私に課せられた使命だと改めて思いました」

そこからマグニー石を配合したヘアケア剤や安全な理美容薬剤の開発に、直美さんの奮闘が始まりました。アトピーや敏感肌の人でも安心して使えて、汚れを落とし、潤いを保つヘアケア剤。その配合バランスが難しく、何度も試作を繰り返したそうです。ちなみに直美さんの美容室では、水にもこだわっていて、髪や肌に優しい軟水（日本は硬水が多いとか）を使用しています。

そしてようやく完成したシャンプーを持って、土佐清水病院（現在・土佐丹羽クリニック）の丹羽先生のところまで、家族全員で会いにも行きました。先生が喜んでくれたのは言うまでもありません。

愛犬もＳＯＤと手作り食でアトピー克服

「私と家族は、丹羽先生との出会いによって、これまで持っていた西洋医療や化学薬品で治す常識や価値観から、自然からの恵みで作られた生薬で免疫をあげて治していく価値観に、まるでオセロゲームのように黒から白にガラリと変わりました」

そんな直美さんの熱意は、次は愛犬シェパードにも向けられました。

「うちには犬もいて、実は10年くらい前に長瀬先生のジェナー動物クリニックにも行ったんですよ。飼っていたのはジャーマンシェパードのオス、エルゴです。大阪の都会の空気と水のせいか、やはり犬もアトピーで、近所の獣医さんに診てもらったのですがステロイドの塗り薬しか処方されませんでした。これではいけないと思って、丹羽先生に相談したら、東京の長瀬先生のところに連れて行きなさい、と即座に言われました。丹羽先生の紹介ですから間違いないと思い、大阪から東京まで車で連れて行きました」

動物用ＳＯＤを丹羽先生と共同開発した長瀬先生の名前まで出てきて驚きました。

「長瀬先生も丹羽先生と同じように、患者さんというか犬に優しいんです。もうね、昔から知っていた友達に話すように、いっぱい犬に話しかけてくれて、診察の仕方が暖かい。私たちは初めてで緊張していたのですが、先生がエルゴの口を診るなり〝この子は石ヤローだな〟と笑われたんです。エルゴは夫が投げる石を取りに行くのが大好きな子で、その石のために歯がすり減っていたのを、瞬時に言い当てられ、緊張が一気に吹き飛びました。そして手作り食を指導していただきました。大型犬ですから、大量のお肉や野菜を圧力釜で調理したり、エゴマ油を入れたり大変でしたが、おいしいのか毎食あっという間に平らげていました。そして安心の手作り食とＳＯＤでアトピーの症状は驚くくらい良くなりました。食事やＳＯＤのおか

げか、エルゴはシェパードとしては長寿の14歳半まで(シェパードなどの大型犬の平均寿命は11歳～12歳といわれています)元気に生きることができたのです。長瀬先生には心より感謝しています。さすが丹羽先生からご紹介いただいた動物病院だなと感動しました」

以来、美容室にいらっしゃるお客様から動物病院の相談をされると、長瀬先生のジェナー動物クリニックを紹介しているそうです。何人もの方がワンちゃんを連れて車や新幹線で東京まで行かれたといいます。

愛犬のジャーマンシェパードのエルゴくん。ジェナー動物クリニックで指導された手作り食レシピで14歳半まで元気に寿命を全うしたのです。

僕たち「丹羽チルドレン」丹羽イズムとＳＯＤで育った子供たち

そうして丹羽先生との出会いからいろいろ学び、研究を重ねて小川家の美容室は「自然派美容室 Hair Therapy EBISU」に生まれ変わり、丹羽先生より「丹羽セラピーシステム」という名前の認可もいただいたのです。直美さんは3人のお子さんにも恵まれ、子供たちの生活や健康にも、安全性をことさら気を使ったのは言うまでもありません。そしてＳＯＤは小川家の常備薬だったと言います。

ＳＯＤを飲んで育ったお子さんたちも今では大人になり、それぞれがどこかでご両親や丹羽先生の影響を受けていると言います。

今28歳になるご長男は東洋医療の道に進み、鍼灸師と柔道整復師の免許を取って開業準備中。子供の頃から丹羽先生の本を読み、西洋医学の薬に頼らない医療を目指したいと思ってきたそうです。インターンの修行に入って間もないときから患部だけでなく、体全体を診てアドバイスをする施療師ということで、患者さんからの信頼がすごく高い様です。開業されたら、ご両親の美容室同様、香害(※注1参照)対策などにも力を入れ、化学物質過敏症の方でも安心して来店できる治療院にしたいそうです。治療にはＳＯＤも導入するので、さらに治療効果が上がると今から楽しみにされています。

26歳になるご長女は、高校に通いながら同時に美容師の専門学校の通信科も履修して美容免許を取得。大学では調理師の免許も取り、自然派セラピー美容師として安全な毛染めである薬草ヘナの普及活動をしています。一児の母となった今は、それに加え安心安全の食育情報も発信していて、カフェレストランや食育料理教室も開きた

次女のSanaさんが描いたイラスト。他にも環境への高い意識でたくさんのイラストを描かれています。

いそうです。これは丹羽先生が直美さんに「僕はいつか自然派レストランを開きたい」と語られていたそうです。丹羽先生と同じ夢を形にしていきたいと、小川さん家族は2年前、京都里山に山林と古民家つき田畑を購入し、自然農法による無農薬天日干し米を育て始めたのです。丹羽先生にはいろいろご報告したいことがたくさんありましたが、残念ながら先生は昨年他界されました。唯一のなぐさめは、初収穫米が先生の元に届けられたことでした。これからは天国の先生に報告しようと、長女さんも夢に向かって計画中だそうです。

そして現在19歳の次女さんは高校に入ってすぐ、コロナで休校になったのをキッカケに「生きる力を身につけたい」と言い、高校をやめて屋久島にある通信制高校「おおぞら高等学校」に入学しました。この高校は脳科学者の茂木健一郎さんが校長をしている高校で、人、自然、社会、世界とのつながりを通じてなりたい大人像を育むための学校です。次女さんは自らこの学校を選び、屋久島でのゼミにも参加したりオンライン授業も受けて卒業されました。

「次女は、通信制の高校だから時間を自由に使えるからと、美容専門学校の通信科にも同時入学し、高校3年間で、高校の単位と美容師の免許を取りました。併せて京都の自給自足の団体に入って、自然農法、狩猟、解体、家畜のお世話など、自然の中で生きることをたくさん学び、狩猟免許まで取ったんです。あと、建築にも興味を持っていて、建築の製造の原料などに使われているホルムアルデヒドの害をなくしたいと言って、左官修行に行き、里山に買った古民家の壁を漆喰で塗っています。そんな感じで次女は美容師の修業をしながら、休日は京都里山の自然農園作業か漆喰作業をしています。変わっているでしょ（笑）」

いやいや、ご両親と丹羽先生の背中を見て育ったからこそでしょう。

「何を言ったわけでもないのに子供たちは、それぞれ自分の道を選択して、自然と安全な衣・食・住・美のどれかの役割を担いがんばっています。風邪をひいたり熱を出すことがあっても、風邪薬などは飲んだことがない、ワクチンもしていない。やっているのは、ＳＯＤを10本、よく噛んで食べ、良い水と腹式呼吸、足元を暖めること。そうすれば風邪なんか治る、が合い言葉になっています」

と言って笑う直美さん。

単なる美容室ではなく アトピーや冷えの相談も

現代社会で化学製品類に触れないで生活することは不可能です。衣食住すべてに化学製品が関わっています。そんな中、私たちは、口に入れるものや顔につける化粧品などには添加物の種類や原材料、輸入国などにものすごく気を使う人が多いけれど、シャンプーやカラー剤、パーマ液などにまで気を使う人はほとんどいないように思います。しかし、口に直接はいらなくても肌から体内に浸透していくとすれば、こんなに怖いことはないかもしれません。顔と頭の肌はつながっているのですから。

直美さんの美容室では髪や肌のお悩みだけでなく、アトピーや冷えなどで困っている方の相談も受け付けているそうです。また京都の農園で採れた自然農法のお野菜なども随時お分けしているとか。自然の素材だけで作った建物で自然派レストランを開く夢もそう遠いことではなさそうです。

こんな美容室が全国に広がっていくことを願ってやみません。

※注1　**「香害」**

シャンプーや柔軟剤などの強い香りによってアレルギー反応を起こす人が増えていることから、消費者庁、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、環境省の五省庁が連名で啓発。ポスターも制作して「その香り困っている人がいるかも?」と訴えています。電車やバス、学校や職場でいつも使っている柔軟剤などの強い香りが人に害を与えている可能性があることを知って欲しいといいます。

自然派美容室
Hair Therapy EBISU

大阪府豊中市永楽荘1-2-5
ご予約専用電話　06-6854-7999
ご質問・ご相談電話　090-9259-3000
営業時間　AM9：00～
カット18：00まで受付
パーマカラー17：00まで受付
定休日　月曜日、火曜日

大阪府豊中市にあるナチュラルでハイセンスな
『自然派美容室 Hair Therapy EBISU』の外観

本紙の利用に関するお願い

日本SOD研究会報は、株式会社丹羽メディカル研究所のみ利用許諾をしております。当研究会の許可なく、文章、画像の一部および全てについて、販促物利用、転載、複製、複写、転用、編集、ブログへの引用などの二次利用を固く禁じます。丹羽メディカル研究所が許可した場合はこの限りではありません。

SOD様作用食品体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒158-0094 東京都世田谷区玉川１－15－２ B棟 2802
日本SOD研究会　宮城宛
TEL 03－5787－3498
までご一報下さい。

●SOD様作用食品とは●
丹羽博士の開発

ＳＯＤとは、スーパーオキサイド・ディスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康のカギを握る物質として「活性酸素」と「ＳＯＤ」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや生活習慣病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くＳＯＤという酵素が存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のＳＯＤだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにＳＯＤという酵素は分子量が大きいために内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。それを、内服できるように研究されたのが丹羽ＳＯＤ様作用食品です。

開発した丹羽靭負（耕三）医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにＳＯＤの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った〝自然の摂理〟は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。〝病気は自分が治すもの〟私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています」

先生は生前、土佐丹羽クリニックの院長として日々、医療の現場で、がん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたられていました。また、ＳＯＤなどを始めとする論文は高い評価を得て、日本のみならず海外の学会で講演したり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送られました。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

SOD研究会からのお知らせ

いつもSOD研究会報をご覧いただきありがとうございます。
最近、特に当研究会へお問い合わせいただくことが多い内容についてお知らせ致します。「丹羽耕三博士のSOD様食品は金の笠のシールが貼られていれば、どこも同じものなのでしょうか?」というような、ご質問をよくいただきます。
その回答としましては、金の笠（管理番号付）シールは丹羽免疫研究所で分析・検定し、エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で開発当初から、厳しい品質管理のもとに伝統的な製法で造られる製品だけに貼付される信頼の証（マーク）でした。しかし、ここ数年前より丹羽先生の考えで別の工場で製造されたSOD様食品にも金の笠のシールが貼られ、販売されているものもあります。土佐清水市の工場で製造されたか、そうでないかを見比べる一つの目安が、まず金の笠シールの特徴にあります。

エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で製造されている製品シールの特徴

原寸大　横 30mm、縦 25mm

- **管理番号は 6 桁**
  ※土佐清水で製造された証明の通し番号となっています。
- **シール左部分に絵や記号が記載されている**
  ※左部分の表示は製品管理の為、不定期に変わります。
- **他の工場で製造された製品と比べ、原末の味や色、粒の大きさが違う場合などがある**

◆現在、丹羽療法の診察は皮膚科のみとなります。ご希望の方はご予約いたします。（※自由診療）
※診療日等に関しましては、状況により変更、休診となることもあります。予めご了承ください。
丹羽メディカル研究所　☎ 0120(731)175